

～古いのに、新しい。日本の用の美を追求した、手のひらサイズの伝統美。～

「越前フールス和紙 福乃ここ千手帳」発売に合わせブランドサイト開設

両面筆記対応の越前和紙と京都西陣・龍村美術織物のコラボレーション

株式会社角文（福井県福井市文京4丁目4番22号、代表取締役：角谷 恒彦）は、7月1日より発売を開始した「越前フールス和紙 福乃ここ千手帳」（6,800円税込。以下、当商品）を余すことなく発信するための、日本語・英語併記のブランドサイトを新たに開設しました。<http://fukunococochi.jp>

当商品は、伝統的かつ革新的な新技術によって生まれた越前和紙を、京都西陣の老舗・龍村美術織物の貴重なお裂地で包み、日本の用の美を追求。発売開始後「日本経済新聞」「趣味の文芸箱」「婦人画報」など、各種メディアに取り上げられました。



株式会社龍村美術織物（京都市中京区、代表取締役：龍村 平蔵）は創業120余年、正倉院や法隆寺に伝わる古代裂の復元や祇園祭など各地の祭りにおける山鉾の懸装品を始め、海外では硝子メーカーバカラ社とのコラボなど、世界有数の美術織物メーカー。

2014年に、山田兄弟製紙株式会社（福井県越前市）、福井県工業技術センター（福井県福井市）と角文が共同で開発に成功した両面筆記用の「越前フールス和紙 福乃ここ千」。伝統的かつ革新的な新技術によって生まれた越前和紙を包むにふさわしい「顔」を探し求めた結果、それは龍村のお裂地でした。

■越前フールス和紙「福乃ここ千」商品化第一弾

日本の用の美を追求した、手のひらサイズの伝統美。

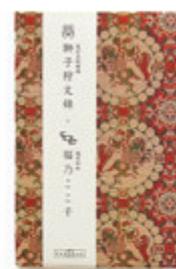
京都西陣の老舗・龍村美術織物コラボのポケットサイズ手帳が誕生！

表装生地は10種類（9柄のうち、1柄がカラーバリエーション2色）。

正倉院所蔵、天平勝宝四年（752年）の東大寺大仏開眼会における雅楽

の装束として使われた「獅子狩紋錦」復元をはじめ、多彩にご用意。

着物やお洋服、ハンドバッグとのコーディネートもお楽しみください。



古いのに、新しい。

<特徴>

- ・日本の織物として最高峰である龍村美術織物とのコラボ商品
- ・越前和紙初「両面筆記和紙手帳」（従来の製法では片面筆記対応のみ）
- ・龍村美術織物の正絹生地を用いながらも、格式を重んじる層にとっては手頃な価格帯を実現

■本件に関するお問合せ先

株式会社角文 代表取締役 角谷 恒彦 電話：0776-22-7731

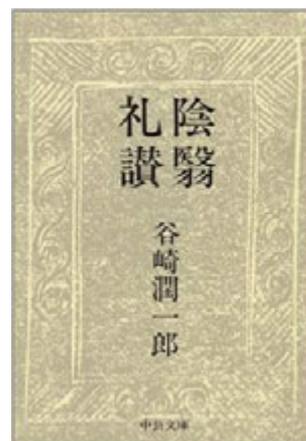
電話受付時間：平日 10:00～18:00、土曜日 11:00～17:00、メール：press@fukunococochi.jp

■店主からのメッセージ

谷崎潤一郎 「陰翳礼讃」(いんえいらいさん) にこんな記述があります。

われわれは西洋紙に対すると、単なる実用品と云う以外に何の感じも起らないけれども、和紙の肌理(きめ)を見ると、そこに一種の温かみを感じ、心が落ち着くようになる。同じ白いのでも、西洋紙の白さと和紙の白さとは違う。

西洋紙の肌は光線を撥ね返すようであるが、和紙の肌は柔かい初雪の面のように、ふっくらと光線の中へ吸い取る。そうして手ざわりがしなやかであり、木の葉に触れているのと同じように物静かでしっとりしている。



上質な和紙に、書くことを愉しみませんか、心を綴る大切な時間にしてほしい考えています。

店主 角谷恒彦

■「越前フールス和紙 福乃ここ千手帳」商品仕様



商品名	越前フールス和紙 福乃ここ千手帳
価格	6,800 円 (消費税込)
枚数/罫内容/行数	64 枚 128 頁/ 7.5 mm/ 15 行
中紙	特漉 越前フールス和紙 福乃ここ千 中性紙
製本様式/小口	糸かがり製本/ 三方金
表装	龍村美術織物製 正絹裂
重量	110g (手帳本体)
製品サイズ (本体)	W93 x H143 x D12mm

■インターネット通販・取扱店

角文 the-Note	http://the-note.jp/
龍村美術織物 Online Shop	http://www.tatsumura.co.jp/shop-jp/

※実店舗でのお買い求めは「角文 (福井県福井市)」「東山ギャラリーH」(石川県金沢市)にて。

■「越前フールス和紙 福乃ここ千」特徴

オリジナル透かし対応のオーダーが出来る「筆記専用和紙」です。少量から特漉承ります。

最小ロットは大手メーカーの1/40「250kg～」

通常、紙を製紙メーカーにフルオーダーするとロット 10t～の発注になります。“越前和紙 福乃ここ千”の最小ロットは 250kg。大手製紙メーカーの 1/40 から承ります。生産コストだけでなく保管にかかるコストなども抑えられます。ノベルティや、今までロットの問題で諦めていたことを実現します。

オリジナルの透かしを小ロットで実現

古くは、江戸時代の藩札、近代では証券用紙や賞状などで培った越前和紙の透かしの技術で、企業ロゴやシンボルマークを透かし込みます。企業の誇りや威厳を透かしにて表現。“越前和紙 福乃ここ千”は、透かし入り最高級の筆記専門紙を実現します。

紙厚は用途に合わせて

紙の厚さは 60g/m²～220g/m²の間でお漉きします。ノート、便箋だと 90g/m²前後、ハガキだと 180g/m²前後と、用途によって適した厚さがございますので、ご注文の際にご提案させていただきます。

基本は「越前 鳥の子」色

「越前 鳥の子」とは伝統的な越前和紙の色。淡い黄色味（クリーム）が鶏卵を連想させることから「鳥の子」という名称がついています。“越前和紙 福乃ここ千”の基本色はこの「越前 鳥の子」ですが、企業カラーなどご希望の色でおつくりいたします。

仕上がりの形は自由自在

仕上がりの形は、便箋・封筒・手帳リフィルなど自由自在。オリジナルな形にも加工できます。お客様のご希望の形や使用方法など、ぜひ一度ご相談ください。



■商品仕様

商品名	越前フールス和紙
紙厚	60g/m ² ～220g/m ²
オーダー透かし	指定位置 ・ 全面散らし
筆記面	両面タイプ ・ 片面タイプ
竹簾模様	あり ・ なし
最小ロット	250kg～（目安：A4 用紙 約 22,000 枚、B5 ノート約 600 冊分）
長期保存に適した中性紙	

■「越前フールス和紙 福乃ここ千」誕生秘話

2006年、東京浅草 ツバメノート社を尋ねた時、渡辺専務が、ポツリと寂しそうに「昔使っていた紙は（バイキングフールス）は、書き心地が良かった何より、ツバメノートのマークが透かし込んであってね、趣きがあったんだよ。」マーク（ダンディーロール）の透かしは、会社のアイデンティティーを示すものであり、誇りでもある。

横で社長がニコニコしながら頷いている。残念ながら、合理化の波に飲まれ、製紙会社の合併に伴い機械を廃棄してしまったそうである。十條製紙製のその紙はもう生産できない。その後ツバメフールスは、大きな機械で生産 ロットも多く、何より透かしの金型が大きい機械に合わせて作る為、生産コストに合わず断念。以降ツバメノートに透かしは無くなった。私の私考だが、フールス紙とは、逆輸入された和紙の竹の簀目であり、1600年～1900年代に輸出されていた和紙を、欧州が模倣したものと思われる。コンケラーレイドなどに見られる、透かし模様はまさに和紙の竹の簀目である。色も越前和紙鳥の子色のほうが古い。紙漉き文化が確立していた日本の和紙。遠い異国の和紙に、素直に評価し品質の高さを模倣した。その名残が、フールス紙なのであると考える。

福井の文具店として、使命のように思えた。自分にしか出来ないこと、「和紙でノート紙を漉く、後世に残す。」事を決めた。

2008年 福井県工業技術センターに、万年筆くらぶ「フェンテ」でべそ会長から分けて頂いたバイキングフールスを、持ち込み分析した。書き心地の最適条件の検証、指標をバイキングフールスとし、目標値とした。万年筆インクと滲み、平滑、透かし、PH 色 厚み 表裏差など課題の克服に多くの人を巻き込み、行動を起こしてから8年の歳月が掛かってしまった。

2014年11月14日 福井県工業技術センターにて「越前フールス和紙 福乃ここ千」を発表した。千年保存可能なPH7前後の完全中性和紙である。書き心地と千年保存でここ千と名づけた。

昨今の無機質でデジタル（つるつるした）な紙ではなく、適度な平滑（引っかかり）は、書く者に悦びを感じ、和紙独特の風合いを残し、心を和ませ思考の邪魔をしない。和紙の色気を残した。

■万年筆くらぶ 中谷でべそ会長、最終サンプルへのお手紙より

サンプルを受け取りまして、とても嬉しく安堵しました。その前の段階のサンプルに対しまして、辛口のコメントを書き込みお送りしたからです。その後、紙の製作をお諦めになられたかと心配していたのです。今回サンプルを受け取りまして、諦めずに取り組んでおられたのだと大変嬉しくなりました。

さて、紙に関する感想ですが、「絶妙のバランスで止まっている」と思います。明らかに普通の紙ではなく、和紙の雰囲気醸し出している。この醸し出しているというバランスがいいです。そして、問題はにじみですが、これもギリギリのところOKです。このギリギリというのが、いかにも日本的な美を感じさせ、「はかなさ」や「もののあはれ」に通じる気がします。普通の上質紙のように、にじまなくて当たり前というところの半歩前で止まっている。でも、にじみませんから大丈夫。後は、厚さと表面の光沢の問題を考えながら商品化をなさってください。

（2014年、最終サンプル到着後のお手紙より一部抜粋）

■会社概要

法人名	株式会社 角文		
代表取締役	角谷 恒彦		
所在地	910-0017 福井県福井市文京 4 丁目 4 番 22 号 (国立大学法人福井大学 正門前)		
電話番号	0776-22-7731	FAX 番号	0776-22-7873
創業	1949 年 4 月 1 日	設立	2003 年 4 月 1 日 (株式会社角文に名称変更)
資本金	1,000 万	社員数	8 名
ホームページ	http://www.kadobun.com/		
通販サイト	the Note (ノート専門店) http://the-note.jp/ ON FILE (オーダーファイル・オーダーバインダー専門店) http://onfile.jp/		

法人名	株式会社 龍村美術織物		
代表取締役	龍村 平蔵 (四代目・龍村 旻 (きよし))		
所在地 (本社事務所)	〒604-8101 京都市中京区柳馬場通御池下ル柳八幡町 65 番地 京都朝日ビル 2 階		
電話番号	075-211-5002	FAX 番号	075-211-5305
創業	1894 年	設立	1978 年 2 月 23 日
資本金	2,400 万	社員数	87 名
事業内容	美術織物の製造および販売 各種緞帳・懸装品の企画・デザイン、製造および販売 (龍村旻氏は、今年 150 年ぶりに祇園祭で復活を遂げた「大船鉾」で、鉾の周りを彩る前懸けなどの懸装品(けそうひん)の復元に携わる。日本における美術織物の第一人者であるだけでなく、ガラス工芸で知られる「バカラ」とのコラボレーションなど世界的に「Tatsumura」として知られる)		
ホームページ	http://tatsumura.co.jp		
通販サイト	http://www.tatsumura.co.jp/shop-jp/		
Facebook	https://www.facebook.com/tatsumura.textile		

■開発支援

アドバイザー	万年筆くらぶ 会長：中谷でべそ (ペンネーム)
事務局所在地	神奈川県 海老名市
概要	万年筆愛好家による愛好家のための会「万年筆くらぶ」を設立・主宰。 会費は無料で、会員のカンパ制度により運営されている任意団体。でべそ会長による手作り会員誌「fuate (フェンテ)」や、100~200 名規模で愛好家が集う年 1 回ペースで開催される親睦会にて会員間の交流を深めている。 (TV「なんでも鑑定団・万年筆目利き大会」審査員として出演)